

達如上人百五十回忌法要



達如上人御影

東本願寺二十世法主達如上人御略歴

安永9(1780)年1月20日(慶応元(1865)年11月4日)

【諱】光明

【幼】説丸、光養丸

【号】達如愚泉、環洲愚嶽

【院号】無上臺院

【出】東本願寺19世兼如上人の5男、母は伏見宮員建親王

の姫千代宮

【事】

1792年 得度ののち継職。父・乗如の遺志を受けつぎ、天明

の大火で焼失した東本願寺の復興に尽力。

1798年 御影・阿弥陀両堂の再建遷仏法要を営む。

1801年 大門竣工。大門楼上の中央には釈尊、脇侍に弥勒

・阿難像を安置。

1804年 親鸞聖人の大師号を上奏する。

1811年 親鸞聖人550回忌厳修の際、後桜町上皇より

羯鼓を寄進される。

1823年 東本願寺両堂などが再度焼失。

1835年 両堂の再建落慶。

1846年 次男・光勝(厳如)に譲職。

1858年 東本願寺諸堂類焼。

1864年 禁門の変で諸堂再び罹災。

1865年 86歳にて薨去。

日時：平成26年11月4日(火) 午前10時

場所：東本願寺東山浄苑 嘉枝堂 (どなたでもご自由に参詣していただけます)

本年は、本願寺二十世法主 無上覺院殿達如上人の百五十回忌に当たります。

達如上人は、京都の大半を焼失した天明の大火を始め、度重なる本願寺両堂の焼失に遭われながらも、その都度、先頭に立って再建されました。

これは単なる伽藍の復興ではなく、上人が逆縁を勝縁に佛法を「再建」された証であります。

東本願寺東山浄苑では、我々が血法一如の本願寺のみ教えをお伝え下さった上人の御恩徳に感謝するとともに、その御事績を讃える百五十回忌の法要・記念行事を厳修します。

皆さまには、本願寺八百年の法統を受け継ぐ当浄苑のこの法要に参詣し、佛恩に感謝する佛縁とされることを期してご案内します。



東本願寺 東山浄苑

〒607-8461 京都市山科区上花山旭山町8の1 TEL.075 (541) 8391 (代)

お問い合わせ・お申し込みは
浄苑内尚書 受付は(フリーダイヤル)午前9時～午後4時まで・年中無休



0120-231-342 FAX 075-531-1663

記念事業

達如上人百五十回忌法名札

(達如上人御染筆六字名号押印紺札金泥特別法名札)



特別法名札
冥加金
1枚 1,500円

達如上人は、度重なる大火に見舞われ、東本願寺が幾度も焼失するなか、繰り返し御再建をされました。その思いは、伽藍(建物)の御再建だけではなく、本願寺のみ教え(本願念佛の教え)の御再建でありました。

このように達如上人をはじめ、本願寺御歴代上人の御苦勞によって、また私たちの先祖代々が受け継ぐことによって、いま我々がこうして本願寺のみ教えに出遇うことができるのです。

達如上人の御事績を偲ぶとともに、先祖に感謝をする達如上人法名札に寄進いただき、法要にご参詣ください。

* お申し込みは、浄苑四季報同封の振込用紙、または東山浄苑尚書にてお申し込みください。

* 1枚につき、法名(又は、戒名か俗名)並びに願人名をそれぞれ1名ずつお入れします。

* 法名札は、お申し込み後、嘉枝堂正面玄関にてお荘りいたします。

* 法名札は、11月4日(火)達如上人150回忌法要と平成26年11月28日(金)御正忌 報恩講にて荘厳いたします。

* 達如上人150回忌法要の際には、法要前にお申し込み下さった法名(又は、戒名か俗名)を読み上げいたします。

* 法名札は、達如上人150回忌法要後、翌年の孟蘭盆会焚浄会にてお焚き上げいたします。



●本堂に荘厳する各法要

※何れの法要も嘉枝堂本堂にて厳修

達如上人百五十回忌法要 【日時】11月4日(火)午前10時

御正忌 報恩講 【日時】11月28日(金)午前10時

●達如上人百五十回忌法名札焚浄会法要(孟蘭盆会焚浄会法要併修)

※法要中に法名札をお焚き上げいたします。

【日時】平成27年8月13日(木)午後6時20分頃

【場所】常楽堂正面玄関横

御正忌 報恩講

【日時】

速夜 平成26年11月27日(木)午後2時

■御俗姓御文拝読(ごぞくしょうおふみはいどく)

■改悔批判(がいけひはん)

■御傳鈔(ごでんしょう)

晨朝 平成26年11月28日(金)午前8時

日中 平成26年11月28日(金)午前10時

■報恩講私記拝読(ほうおんこうしきはいどく)

■嘆徳文拝読(たんどくもんはいどく)

■坂東曲(ばんどうきょく)

【場所】 嘉枝堂本堂

※どなたでもご自由に参詣していただけます。



【報恩講】報恩講とは、親鸞聖人の御祥月御命日で、本山及び末寺(手次寺)、門徒宅でも勤められる浄土真宗で最も大切に重要な佛事です。聖人は、阿弥陀如来の他力本願におすがりすれば必ず救われる。そのよろこびから信心をえて、「南無阿弥陀佛」とお称えするお念佛の御教えをあきらかにされました。聖人のお徳を偲び、阿弥陀如来、親鸞聖人をはじめ師主知識(御歴代法主)に感謝する佛事で、皆さまのご先祖方が今日まで大切に伝えて下さいました。

【坂東曲】坂東曲とは、東本願寺のみに伝わり、本山東本願寺でしか勤まらない「坂東曲」。本願寺御門主台下の御調声により、前後左右に体を揺すりながら念佛を高らかに称え勤まります。由来は、聖人が関東教化の折り、暴風の船中の中、皆と念佛されたことによるとも、本願寺第八世蓮如上人が福井の吉崎を退去の折り、船中で報恩講を勤められた名残とも言われています。